

たゆまない変化が起きるように組織を誘導する

理事長 西河洋一

五輪招致の経済効果を期待したい

先日7年後に開催される五輪招致が東京に決まりました。東京都の試算によれば7年間で約3兆円、年平均で約4千億円と、かなりの額の経済波及効果が期待されています。失われた20年長間、デフレ経済や東日本大震災などにより閉塞感が漂っている日本に、相当な活力を与えるものと思います。

過去を思い出すと、90年代に入りバブル経済が崩壊してから、日本経済はデフレ、低成長といった低迷期から脱出できず今日に至りました。

産業の空洞化現象が起こり、日本は危機的状況

日本企業の多くが守りの経営に入り、その間殆どの経営者達は、選択と集中と言われるリストラ戦略に取り組み、研究開発体制の縮小、設備投資の抑制、事業の統廃合を行いました。将来に対するビジョンが描けずに経営者にとっては、とても辛い時期でありました。

研究開発投資を抑制した結果、革新的な技術を生み出すような人財が育たず、更に有能な技術を有した人材が海外へ流出する等、企業を支えた大切な技術者が減少し生産工場の海外移転も進行。産業の空洞化という現象が起こりました。物造り大国日本の危機的状況です。

今こそ守りから攻めに転ずる好機

しかし今、時代は大きく変わろうとしています。今こそ経営トップとして総意をリードする革新的な方針を提言する事が大切です。総意によって決めようとする何事も常識的になりなかなか前に進めません。時代をリードしてきた企業は斬新的なアイデアにより、不可能を可能として幾多の新製品を開発し、日本の経済を牽引してきました。今こそ守りから攻めに転ずる好機です。

競争を生き抜くために経営者がやるべきこと

競争を生き抜くために経営者は、組織に革新的な目標を与え、たゆまない変化が起きるように組織を誘導することだと私は考えています。

以上